

第 54 回東葛しぜん観察会

市川・長田谷津の自然めぐり

山口正明（船橋市）

日 時：2009 年 9 月 13 日（日）9：45～12：00 天気：晴

場 所：市川市 長田谷津（大町自然観察園）

参加者：大人 23 名 子ども 4 名 指導員 18 名 合計 45 名

担当指導員：勝田信喜、山口正明、（瀬谷 昭）

前日が大雨で、その直後の気持ち良い秋晴れ。幼児から虫博士の小学生・生態学を学ぶ大学生など多彩なメンバーが参加しました。谷津ってどういう場所で、どんな特徴があるか？を先ず確認して出発。長田谷津は、全長 1.9km、その最深部 700m が大町自然観察園として保全されています。市川市としては、ほぼ唯一といってよい、自然に近い形で保全された谷津の自然を観ることができます。湿地の狭い遊歩道を歩くため、4 班に分けて、順路通りに進む班と逆方向に進む班に別れて行動しました。

植物では一面の緑の中に、ツリフネソウ・ミソハギのピンク色とツクサの青色のコントラストが美しい。湿地好みのガマ3種（ガマ、コガマ、ヒメガマ）、ジュズダマ・フトイ・ツルマメ・キツネノマゴ・ミズタマソウなども目に付きました。

昆虫としては、何といても、縄張りをパトロールするオニヤンマが目につきます。数多く、目の前に止まっている姿をアップで観られ、緑色の眼、黒色の体に、黄色の縞。ホレボレする配色と形に、子どもだけでなく、「カッコイイ」とうっとりするヤングママも。

今回、クモは結構人気アップ。ジョロウグモ・ナガコガネグモの色彩に「日頃は気持ち悪いとだけ思っていたクモも、よく見るとキレイなものなのですね」と中年女性。ちょっと突いていたずらすると、イオウイロハシリグモの子どもがまさにクモの子を散らすように逃げる様子に、思わず歓声も。そのほかには、オオカマキリ・コカマキリ、水中のカダヤシ・ザリガニ・サワガニ、めずらしく木に登って昼寝（たぶん）をしているアオダイショウなど。

ループを配って、カナムグラのトゲの形や、ツリフネソウの花などを観てもらったところ、「拡大して観ると、別世界のようなですね」と男性参加者から、うれしい感想も。帰りには、谷津の湧水の源に貢献している台地の上にある梨農園で梨を買い求められた方も多かったようです。



ミズタマソウやジュズダマなど湿地の植生を観察



ツリフネソウとマルハナバチのすてきな関係を観察しました



卵のうを抱えるイオウイロハシリグモ